

2026年8月31日

各 位

株式会社 大垣共立銀行

養老町における「養老健幸プロジェクト」の取り組みをサポート ～養老町と東海国立大学機構との協働による健康増進事業～

大垣共立銀行（頭取 林 敬治）は、養老町（町長 川地 憲元）および東海国立大学機構健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点（拠点長 勝野 雅央、以下「C－REX」）が協働して実施する、養老町独自の健康増進事業「養老健幸プロジェクト」のサポートを開始しました。

本事業は、PHR（※1）管理アプリ「S a l u D i（サルディ）」（※2）を活用し、町民の健康管理や運動習慣の定着などの行動変容を促すことで、生活習慣病やフレイルの予防、医療費の適正化を目指すものです。

S a l u D iには健康診断データやウェアラブル端末から取得した歩数や血圧などのデータを取り込むことが可能で、その記録をもとに養老町が実施する特定健診や特定保健指導などにおいて、保健師や管理栄養士が一人ひとりに応じたアドバイスや励ましを行います。これにより町民の健康意識の醸成と継続的な健康行動の促進を図ります。

また、蓄積されたデータはC－REXが分析し、その結果を同町の保健事業へ反映することで、より効果的な健康増進施策の実現を目指します。さらに、養老町が運用するデジタル地域通貨「養老P a y」にて、健康イベントへの参加などに対するインセンティブとしてポイントを付与することで、町民の主体的な健康行動を促します。

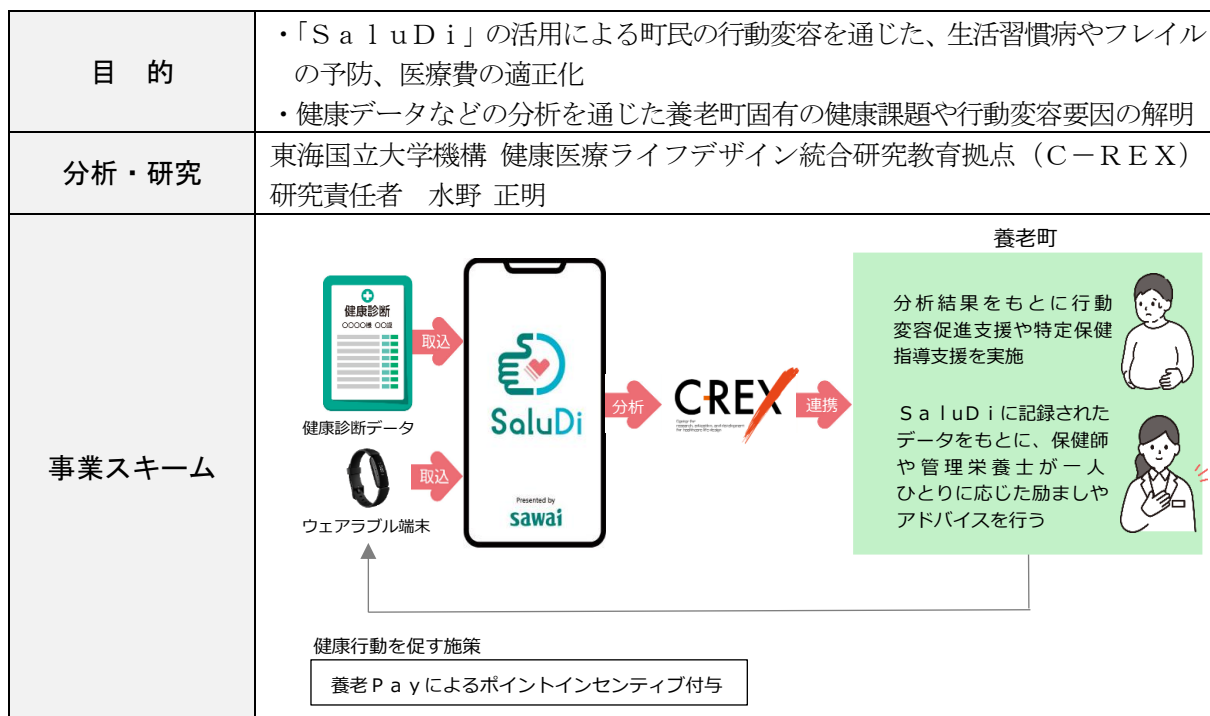
OKBは本事業の推進を支援するとともに、これまで養老町とともに「養老P a y」の運用に携わってきた実績を活かし、インセンティブ付与制度の構築・運用をサポートします。

（※1）PHR（Personal Health Record）

医療機関の受診歴や健診結果、日々の歩数・血圧などの個人の健康・医療に関するデータのこと

（※2）PHR管理アプリ「S a l u D i」は沢井製薬株式会社が提供しています

■養老健幸プロジェクト概要



以 上